



ある日の育児日記から

佐藤 和代 ***

有の保育園が決まりました。圭と同じ園です。

教育も持参しました。

「これ連載中です」

が決まるまではハラハラ。何しろ、申込み書には「母親の仕事…内職、一日二時間」と書いたのです。入園は、『保育に欠ける』状態の切実な順ですから、ランクとしてはかなり下のほう。しかたないので、申し込むとき、他の資料をたくさんかかえていきました。「フリーで編集の仕事をしています。これが昨年の確定申告。この本は私の名前、載っています。五月からの別の仕事もきます。これが企画書…』恥ずかしながら『幼児の

三年前、圭の入園を申し込みなどは、各園の特色も、優先順位のつけ

られ方も知らず、ただ申し込み書を一枚、置いてきただけ。ダメでもともと、という感覚でした。

でも二人目の子はそうはいきません。ひとり保育園に通っていれば、いろいろ情報がはいつてきます。ぜひこの園へ通わせたい、という思いいれも強くなるし、書類一枚ですませてはダメということもわかつてきました。

役所の窓口であれこれ訴えるなんて、私の一番苦手な分野。でも子どもにかかわることになるとがんばります。母は強しなーんて自己満足かしら。

